2026
議会だより
Vol.131

げいせい



7月14日
第2回臨時会

8月24日
第3回臨時会

9月8日~11日
9月定例会

議会の新体制決まる ……2
人事・条例 …… 4・6
令和7年度決算 ……7
令和8年度補正予算 ……11
6氏が一般質問 …… 14

芸西メランジュ

新体制決まる!!

議長に山本俊二氏
副議長に仙頭一貴氏



山本　俊二議長



仙頭　一貴副議長

8月24日、村議会議員選挙後初の臨時会が開かれ、正副議長選挙、各常任委員会委員、議会運営委員などの選任を行った。

議長選挙では、山本俊二氏5票、仙頭一貴氏5票で同数となり、くじ引きにより山本俊二氏を議長に選出。副議長選挙では仙頭一貴氏10票で仙頭一貴氏を副議長に選出した。

新しい各委員会等の構成は以下のとおり。

就任のごあいさつ

村民の皆さまにおかれましては、日頃から村議会に対しまして格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝とお礼を申し上げます。

この度、令和8年第3回臨時会におきまして議長および副議長に就任いたしました。

身に余る光栄に存じますとともに、職責の重さを痛感し、身の引き締まる思いでございます。

村議会では、村民の皆さまの意見を真摯に受け止め、謙虚に耳を傾けながら、ともに考え、ともに進める議会をつくる必要があると考えます。

議会制民主主義に基づき二元代表制の一翼を担う議会として、一定の緊張感を持ち、公平公正の立場を堅持し、村民にとってより良い村政を目指すために、さまざまな角度から意見を出し合い、課題や論点を議論し、よりよい合意形成を図る活発な議会を築くために、努力していく所存です。

公正円滑な議会運営に努めますとともに、村政の発展、住民福祉の向上に鋭意努力してまいりますので、皆さまのご協力とご指導をお願い申し上げ、就任のあいさつといたします。

第3回臨時会（8月24日）

議会の

総務常任委員会



（◎委員長　○副委員長）

白石　修三	西笛千代子	山本　俊二
○安岡　公子	◎岡村　星弥	

経済建設常任委員会



（◎委員長　○副委員長）

岡村　俊彰	坂本　史	仙頭　一貴
○濱田　圭介	◎堀川　友久	

議会広報編集委員会

◎坂本　史
○岡村　俊彰
岡村　星弥
白石　修三
仙頭　一貴
西笛千代子
濱田　圭介
堀川　友久
安岡　公子
山本　俊二

◎委員長
○副委員長

議会運営委員会

◎坂本　史
○岡村　俊彰
岡村　星弥
堀川　友久
仙頭　一貴

◎委員長
○副委員長

第2回臨時会（7月14日）

令和8年度補正予算

一般会計（専決第1号）

148万円を追加し、総額を63億9548万円とするもの。

保育所エアコン設置工事費148万円。

【全員賛成で承認】

財産の取得

取得する財産

居宅1件

・軽量鉄骨造瓦ぶき2階建、床面積99・77平方メートル

（所在）芸西村西分字一番訳乙1273番地2

倉庫3棟

・鉄筋コンクリートブロック造、床面積281・28平方メートル

・鉄骨造スレートぶき、床面積101・91平方メートル

・鉄骨造鋼板ぶき、床面積229・8平方メートル

（所在）芸西村西分字一番訳乙1273番地3

契約金額

2803万9000円（うち消費税254万9000円）

契約の方法

随意契約

契約の相手方

社会福祉法人ウエルプラザ

【全員賛成で可決】

財産の取得

取得する財産

タブレット端末319台

契約金額

1750万9910円（うち消費税159万1810円）

契約の方法

随意契約

契約の相手方

四国通建・エレパ共同企業体

【全員賛成で可決】

財産の取得

取得する財産

産業用圧搾機1台

契約金額

1067万円（うち消費税97万円）

契約の方法

随意契約

契約の相手方

株式会社マツオ

【全員賛成で可決】

第3回臨時会（8月24日）

令和8年度補正予算

一般会計（専決第2号）

120万円を追加し、総額を63億9668万円とするもの。

保育所エアコン設置工事費120万円。

【全員賛成で承認】

人事

監査委員に岡村星弥氏（新任）

監査委員に岡村星弥氏を選任したいとの提案があり、全員賛成で同意した。

任期

令和8年8月22日から令和12年8月21日まで。



岡村　星弥氏

財産区管理会委員

財産区管理会委員に次の23氏を選任したいとの提案があり、全員賛成で同意した。

和食

髙松道男氏　宮崎義明氏
髙松伸夫氏　山本俊二氏
坂本任弘氏　池田美延氏
竹内雅樹氏

西分

岡村昌孝氏　佐藤泰史氏
白石修三氏　都築博之氏
籠谷英彰氏　公文基嗣氏
都築英明氏

馬ノ上

岡村光剛氏　竹﨑孝夫氏
山内澄夫氏　下司良介氏
伊東尚彦氏　岡村憲一氏
岡村真吾氏

久重

大野志津子氏　坂本計三氏

任期

令和8年8月27日から令和12年8月26日まで。

令和８年　第２回　臨時会　審議結果

議案		結果	堀川 友久	坂本 史	山本 俊二	濱田 圭介	安岡 公子	西笛千代子	岡村 俊彰	岡村 星弥	仙頭 一貴
議案第26号	令和８年度芸西村一般会計補正予算（専決第１号）の承認について	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第27号	財産の取得について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第28号	財産の取得について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第29号	財産の取得について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	議長

※「○」は賛成。「×」は反対。　「欠」は欠席。「議長」は採決に加わらないが、可否同数の場合は議長採決。

令和８年　第３回　臨時会　審議結果

議案		結果	白石 修三	岡村 星弥	堀川 友久	坂本 史	濱田 圭介	安岡 公子	西笛千代子	岡村 俊彰	仙頭 一貴	山本 俊二
議案第30号	令和８年度芸西村一般会計補正予算（専決第２号）の承認について	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第31号	監査委員の選任について	同意	○	除斥	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第32号	和食財産区管理会委員の選任について	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第33号	西分財産区管理会委員の選任について	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第34号	馬ノ上財産区管理会委員の選任について	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第35号	久重財産区管理会委員の選任について	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長

※「○」は賛成。「×」は反対。　「欠」は欠席。「議長」は採決に加わらないが、可否同数の場合は議長採決。
※「除斥」地方自治法第117条による。

●議会の動き

7月

7日（火）・14日（火）・15日（水）・23日（木）
決算審査（事前審査含む）　【監査委員】
13日（月）　議会だより130号第3回広報編集委員会
14日（火）　令和8年第2回芸西村議会「臨時会」
15日（水）　例月出納検査　【監査委員】
16日（木）　神奈川県清川村行政視察
【議長・副議長・総務常任委員長】
17日（金）　安芸郡町村議会議長会議員研修（田野町）
24日（金）　安芸広域市町村圏事務組合定例会・ご・な線総会（安芸市）　【議長】
29日（水）～30日（木）
８の字ネットワーク四国東南部連盟中央要望（東京都）　【議長】
31日（金）　四国土砂防災ネットワーク議員連盟総会（高知市）　【議長】

8月

7日（金）　安芸広域市町村圏特別養護老人ホーム組合議会臨時会　【議長】
15日（土）　芸西村戦没者追悼式
18日（火）　例月出納検査　【監査委員】
24日（月）　令和8年第3回芸西村議会「臨時会」
27日（木）　８の字ネットワーク四国東南部連盟総会（徳島県）　【議長】

9月

8日（火）～11日（金）
令和8年第3回芸西村議会「定例会」
11日（金）　議会だより131号第1回広報編集委員会
17日（木）　交通安全祈願祭　【議長】
例月出納検査　【監査委員】
18日（金）　議会だより131号第2回広報編集委員会
19日（土）　芸西村敬老会　【議長】
29日（火）　四国地区町村議会議長会研修（高知市）
30日（水）　徳島県牟岐町行政視察
【議長・副議長・総務常任委員長】

令和８年９月定例会

教育長・教育委員を任命

令和８年９月定例会は、９月８日から11日までの会期で開かれ、令和７年度決算認定、令和８年度補正予算、教育長の任命についてなど村長提出19議案を審議・採決した。

また、一般質問には６氏が登壇し、村政全般についてただした。

その概要は以下のとおり。

人事

教育長に山内將利氏（再任）

教育長に山内將利氏を任命したいとの提案があり、全員賛成で同意した。

任期
令和８年10月４日から令和11年10月３日まで。



山内　將利氏

教育委員に吉永ゆかり氏（再任）

教育委員に吉永ゆかり氏を任命したいとの提案があり、全員賛成で同意した。

任期
令和８年10月１日から令和12年９月30日まで。



吉永ゆかり氏

条例

認可地縁団体印鑑条例の改正

法の改正に伴い、関係条例に生ずる条ずれの所要の改正を行うもの。

【全員賛成で可決】

財産の取得

山間部等、水利に乏しい場所での初期消火及び、災害発生時の生活用水の供給のため、消防水槽車１台を購入するもの。

取得する財産
消防水槽車１台

契約の方法
指名競争入札

契約金額
２４６４万円
（うち消費税224万円）

完成期限
令和９年３月31日

契約の相手方
高知消防システム（株）

【全員賛成で可決】

議会の傍聴にお気軽においでください。

議場の音声を庁内放送しております。庁舎３階へお越しになれない方も、庁舎１階・村民会館１階でもお聴きいただけます。

次の定例会は12月の予定です。

詳しく知りたい方は、村のホームページでも会議録が閲覧できます

議会事務局
（TEL）33－2137

編集委員

委員長　坂本　史
副委員長　岡村　俊彰
委員　岡村　星弥
白石　修三
仙頭　一貴
西笛千代子
濱田　圭介
堀川　友久
安岡　公子
山本　俊二

令和７年度 決　算

ふるさと納税返礼品費　1億2,048万円

道路改良工事費　5,319万円

一般会計

歳出　56億4,033万円

消　防

毎月2回の訓練に加え、水防訓練や抜き打ち訓練、水上バイク隊の訓練などを実施した。

安芸市消防本部で開催されたポンプ車操法大会では、第三分団が総合2位となった。

火災では1件の出動があった。

救急業務委託は、前年度より5件増加し、264件の出動があり、急病146件・転医50件・負傷51件・交通事故等17件となっている。



消防操法大会

防　災

村内一斉防災訓練を12月に実施し、避難訓練やトランシーバーを利用した情報伝達訓練、避難所設営訓練を実施した。

琴ケ浜野外劇場に避難誘導看板を設置し、和食防災拠点施設（第二分団屯所）に空調機を整備した。

備蓄品は、食料品（アルファ米・飲料水・缶詰・パン・ビスケット）、簡易トイレ処理袋、カセットガス発電機などを購入し、災害に備えている。

租税債権管理機構

村税の徴収率は、前年度同率の99・1％となっている。

口座振替の推進などにより、徴収率の向上を図るとともに、滞納繰越額についても、早期に滞納処分を行うことにより、滞納額の縮小に努めている。

健　康・福　祉

がん検診・集団健診は、事前予約制とし、待ち時間が少なく安心して受診できるよう環境整備に努めた。

健診標語コンクールや特性に応じた勧奨通知、受診率の庁内掲示などで受診率の向上に努めた結果、受診率は42・7％となり、3年連続で増加となった。

健康意識向上と受診継続の取り組みとしての健診結果説明会は129人が参加した。

小児生活習慣病予防健診は、小学4年生と中学1年生に高校1年生を加えて実施した結果、受診者数は56人、受診率は62・2％になった。

また、要精密検査となった児童を対象に、親子での健診結果説明

会を実施した。
　障害福祉は、障害のある方及びその家族、介護者が利用できる障害福祉ガイドを作成し、各種障害サービスや窓口相談、施設紹介などの周知を行った。
　産後ケア事業は、助産師による訪問型、施設での日帰りケアの通所型、親子で宿泊ケアを受ける宿泊型を実施し、延べ23組の利用があった。



小児生活習慣病予防健診（よかッパ健診）

産業振興

　地籍調査事業は、和食乙地区の205筆０・６平方キロメートルの一筆地調査及び測量業務を行った。
　移住促進は、東京・大阪で開催された「高知暮らしフェア」に出展した。
　また、高知県東部地区合同で企画した「東部移住フェア」を東京で開催し、東部地域の魅力を伝えた。
　地方創生移住支援事業は、１世帯に移住支援金を交付した。
　地域おこし協力隊は、農業担い手候補として１人を採用した。
　奨学金返還支援事業は、17人を支援した。
　住まい応援奨励金は、４人に住宅取得支援を行った。
　園芸用ハウス整備事業は、新規就農区分１件のレンタルハウスを整備した。
　園芸用ハウス等リノベーション事業は、被覆資材の高度化に取り組んだ７戸の農業者のほか、炭酸ガス発生機や環境測定機の導入など、10戸の農業者に環境制御技術の支援を行った。
　燃料タンク対策事業は、流出防止付燃料タンク４基と防油堤５基、ヒートポンプ加温機１件の整備支援を行った。
　環境負荷軽減事業は、花卉（かき）農家１戸に土壌還元消毒の取り組みを支援した。
　農業担い手確保育成は、１人の新規就農者に経営開始資金の支援、就農支援事業は、就農希望者１人に研修支援、新規就農後継者１人に経営支援を行った。
　経営発展支援事業は、新規就農者１人に設備の導入支援を行った。
　農地確保等支援事業は、７人の新規就農者に借地料の負担軽減を行った。
　有害鳥獣の駆除は、シカ269頭、イノシシ55頭、その他サルなど９匹を駆除した。
　林業は、みどりの環境整備事業と山の手入れ支援事業で、４・５ヘクタールの間伐支援を行った。
　水産業は、ヒラメ稚魚の放流や漁港海岸、漁場の清掃活動を支援した。
　漁家子弟支援事業は、漁業後継者２人に支援を行った。
　また、漁港内の外灯や製氷機クーリングタワーの補修工事を行った。
　商工業は、小規模事業者経営改善資金の利子補給を行い、経費負担の軽減を図った。



高知暮らしフェア

また、商工業振興総合事業で、1団体に販路拡大・販売強化の支援を行った。

一般住宅の耐震対策事業は、耐震設計19件、改修工事25件、ブロック塀改修5件、瓦屋根改修診断4件、瓦屋根改修4件の支援を行った。

空き家対策事業は、老朽住宅除却2件、荷物整理1件の支援を行った。

土木環境

道路事業は、村道江尻線と村道北叶岡線の舗装改修や、村道和食馬ノ上線の側溝改修工事を行った。

5年ごとの道路橋定期点検は、対象となる100か所の点検を行った。

新設改良事業は、村道春田屋敷線の道路拡幅工事を行った。

治水対策は、安芸農業振興センターと合同で、浸水地区の農家を対象に、県営湛水防除事業による排水ポンプ増設等についての説明会を開催した。

和食ダム建設事業は、5月に試験湛水が完了し、10月には竣工式典を開催した。

村の関連事業は、ダム左岸側の支線管理道の再整備や、駐車場にトイレ・東屋の整備を行った。

高規格道路整備事業は、アゾウ谷川の付替工事や西分地区の地盤改良が行われた。

地元施行補助金事業は、水路などの改修で5件333万円、道路や排水路などの改良で7件814万円を補助した。

道路維持管理事業は、草刈りや清掃活動で15団体81万円を補助した。

環境対策は、生ごみ処理機の購入費用助成を4件行った。



和食ダム駐車場のトイレ・東屋

ふるさと納税

寄附額は、16億5452万円となった。

事業者支援事業費補助金は、4つのプロジェクトに4268万円を補助した。

集落活動センター

大阪・関西万博の高知県ブースに出店し、「白玉糖」を使った菓子を広くPRした。

教育

教育施設集約化事業は、関係機関・保護者・住民合わせて22人でワークショップを3回行い、建築基本設計条件の検討を行った。

また、住民説明会を2回、保護者説明会を保・幼・小・中それぞれで開催した。

生涯教育は、日本語サロン、夏休み子ども教室、生涯学習振興大会、成人式などを行った。

社会体育は、ビーチボールバレー大会、ソフトボール大会、新春タコの山登り、村内駅伝を開催した。

資料館・美術館は、「8ミリフィルム映像と古い映写機展示会」など8企画展を開催し、両館合わせて3757人が訪れた。

【全員賛成で認定】



生涯学習振興大会

住宅資金貸付会計

歳入115万円、歳出115万円。

7年度は残る1人から貸付元利金102万円を徴収し、分納計画に基づき滞りなく償還されており、未収額が減少している。

【全員賛成で認定】

国保会計

歳入7億447万円、歳出6億8516万円。

国保事業における平均世帯数は702世帯、平均被保険者数は1177人で、前年度より22世帯の減少、被保険者は50人の減少。

保険給付費は4億4912万円で前年度比1・0%の増加。特定健診の受診率は42・7%で前年度比2・1%の増加。

医療費の抑制には、疾病を早期に発見、治療することや日頃の生活習慣が大切であることから、特定健診の受診を促進し、受診率の向上に取り組んだ。

【全員賛成で認定】

介護保険会計

歳入5億7379万円、歳出5億4940万円。

7年度末の人口は3547人、高齢者は1314人、高齢化率は37・0%となり、前年度比0・2%減少。

1号被保険者数は、前年度より5人増加し1295人、認定者数は3人減の262人、サービス受給者は9人減の203人であった。

介護給付費の歳出決算額は5億748万円で、前年度より2793万円の減少。

給付費の高いサービスのうち、居宅サービス費は1億5800万円で前年度比3・4%減少、施設サービス費2億5330万円で前年度比7・1%減少となっており、居宅・施設サービス費共に減少した。

介護予防・重症化予防としてふれあいセンターなどでの運動や栄養、口腔機能向上などの介護予防教室を延べ48回開催し、388人の参加があった。

また、村民会館では介護教室を2回開催し延べ55人が参加、介護予防講演会も開催し39人の参加があった。

【全員賛成で認定】

後期高齢者医療会計

歳入8801万円、歳出8663万円。

被保険者数は817人で前年度より7人増加。

被保険者のうち、75歳以上は全体の99・4%、65歳以上75歳未満で障害認定を受けた者は5人で、全体の0・6%となっている。

高知県後期高齢者医療広域連合への負担金は、363万円増の795万円となった。

【全員賛成で認定】

簡易水道事業会計

営業収益は、5132万円、営業費用は、8177万円。

老朽化対策として、農道3－4号線の送水管及び村道琴ノ浜線の配水管の布設替工事を実施した。

また、経年劣化が進んでいる井ノ本水源地No.3取水ポンプの取替工事を実施した。

耐震化を進めるため、城本配水池の更新及び馬ノ上配水池の耐震補強に係る設計業務、村道長谷線の老朽化した配水管の布設替工事設計に取り組んだ。

給水管理は、配水管の破損や設備不良の発生時には早期の復旧を図り、安定した水道水の供給に努めた。

【全員賛成で認定】

下水道事業会計

営業収益は、4642万円、営業費用は、1億7090万円。

下水道施設は、平成13年度の供用開始から年数が経過し、老朽化が進行している。

長寿命化対策として、日本下水道事業団と契約し、ストックマネジメント事業を実施した。

7年度からの2年間は、曝気（ばっき）装置等の水処理機器及び現場操作盤等の電気機器の製作を進め、9年度に更新工事を行う予定。

浄化センターや地区のマンホールポンプ場等は、専門業者への委託により適正な維持管理と異常時の早期対応に努めた。

下水道への新規接続は一般住宅9戸の申請があり、年度末の下水道加入率は82・5%となった。

【全員賛成で認定】

一般会計（第２号）

令和８年度 補正予算

補正額１億3,477万円の増額
総額65億3,146万円

主なもの

区　　分	金　　額
情報発信拠点施設整備（解体）工事費	2,700万円
庁舎空調改修工事費	3,650万円
介護保険会計繰出金	227万円
赤野川線補修工事費	500万円
和食ダム周辺整備工事費	100万円
防火水槽撤去工事費	△145万円

情報発信拠点施設整備（解体）工事費　2700万円

庁舎空調改修工事費　3650万円

質疑

問　安岡議員

保健体育総務費の内容を問う。

答　佐藤教育次長

少子化の進行で、中学校部活動の状況は厳しさを増している。

また、国から教育職員の時間外在校時間を月平均30時間程度に削減する方針が示された。

それを受けて県においては、休日部活動の指導を教員が行わない体制に移行することとし、令和13年度末までを目安に休日の学校部活動は地域クラブ活動に移行することとされている。

本村においても、部活動検討委員会を組織し、地域展開について検討を行っている。

本年11月から先行して、陸上部の休日部活動の指導を地域クラブに委ねることを目指し、指導者３人への報酬、大会参加のためのバスの借上料、生徒の傷害保険料、検討委員報酬を計上している。

【全員賛成で可決】

国保会計（第１号）

１９３０万円を追加し、総額を７億６０７０万円とするもの。

県支出金精算返納金150万円、基金積立金１７８０万円の増。

【全員賛成で可決】

介護保険会計（第２号）

２８５５万円を追加し、総額６億１０８９万円とするもの。

主なものは、基金積立金1172万円、国庫支出金精算返納金1259万円の増など。

【全員賛成で可決】

後期高齢者医療会計（第1号）

137万円を追加し、総額を9087万円とするもの。

後期高齢者保険料負担金137万円の増。

【全員賛成で可決】

簡易水道事業会計（第1号）

収益的支出263万円を追加し、総額を1億1530万円とするもの。

主なものは、維持管理修繕費250万円など。

【全員賛成で可決】

下水道事業会計（第1号）

収益的支出60万円を追加し、総額を1億8110万円とするもの。

マンホールポンプケーブル取替修繕費60万円。

【全員賛成で可決】

村道路線の廃止

和食ダムの建設に伴い、区間の大半が和食ダム貯水池内に位置し通行できないことから路線の廃止を行うもの。延長1935メートル。

西谷線

馬ノ上字仁井田3686地先から馬ノ上字西谷南平4595―2

老朽化により東木戸橋を撤去したことにより起点と終点が変わることから路線の廃止を行うもの。延長147・3メートル。

東木戸線

馬ノ上字岩ノ川4485―2地先から馬ノ上字北岡2203

ダム建設に伴う付替え道を、ダムの基幹管理道として県が管理することから路線の廃止を行うもの。延長338・8メートル。

西谷北線

馬ノ上字間谷4597―1地先から馬ノ上字間谷4597―1地先

【全員賛成で可決】

村道路線の認定

和食ダムの管理区域として県が管理する区域を除く道路について、起点と終点を再設定し認定を行うもの。延長622・67メートル。

西谷線

馬ノ上字仁井田久保3688―2から馬ノ上字北畑2786

東木戸橋の撤去で路線の廃止を行うことに伴い、起点と終点を再設定し路線認定を行うもの。延長134・3メートル。

東木戸線

馬ノ上字北岡2203から馬ノ上字北岡2203

和食ダムの建設に伴い、県が整備した工事用道路及び付替え道を新たに越方北路線として起点と終点を設定し路線認定を行うもの。延長1403・7メートル。

越方北路線

馬ノ上字越方北路2812―2から馬ノ上字間谷4596―6

【全員賛成で認定】

研修

安芸郡町村議会議員等研修会

7月17日、安芸郡町村議会議員等研修会が、田野町ふれあいセンターで開催され、7町村の議員、監査委員などが集まりました。

「消防広域化の取組状況について」、「現在の認知症治療と施策」と題した二つの講演があり、研修を受けました。

四国地区町村議会議長会研修会

9月29日、新来島高知重工ホール（県民文化ホール）で開催された、四国地区町村議会議長会研修会に参加しました。

「高市長期政権は可能か？～鍵を握る「我慢」の2文字～」、「大河ドラマとは違う歴史の真実」と題した二つの講演があり、研修を受けました。

視察

清川村議会行政視察

7月16日、神奈川県清川村議会が行政視察（ふるさと納税について）に来村し、議長・副議長・総務常任委員長と企画振興課が視察の対応をしました。

牟岐町議会行政視察

9月30日、徳島県牟岐町議会が行政視察（ふるさと納税について）に来村し、議長・

令和８年　第３回　９月定例会　審議結果

議案		結果	白石 修三	岡村 星弥	堀川 友久	坂本 史	濱田 圭介	安岡 公子	西笛千代子	岡村 俊彰	仙頭 一貴	山本 俊二
議案第36号	教育長の任命について	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第37号	教育委員会委員の任命について	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第38号	芸西村認可地縁団体印鑑条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第39号	令和７年度芸西村一般会計の決算認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第40号	令和７年度芸西村住宅新築資金等特別会計の決算認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第41号	令和７年度芸西村国民健康保険特別会計の決算認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第42号	令和７年度芸西村介護保険事業特別会計の決算認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第43号	令和７年度芸西村後期高齢者医療特別会計の決算認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第44号	令和７年度芸西村簡易水道事業会計の決算認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第45号	令和７年度芸西村下水道事業会計の決算認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第46号	令和８年度芸西村一般会計補正予算（第２号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第47号	令和８年度芸西村国民健康保険特別会計補正予算（第１号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第48号	令和８年度芸西村介護保険事業特別会計補正予算（第２号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第49号	令和８年度芸西村後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第50号	令和８年度芸西村簡易水道事業会計補正予算（第１号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第51号	令和８年度芸西村下水道事業会計補正予算（第１号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第52号	村道路線の廃止について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第53号	村道路線の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
議案第54号	財産の取得について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長

※「○」は賛成。「×」は反対。　「欠」は欠席。「議長」は採決に加わらないが、可否同数の場合は議長採決。

牟岐町議会視察





副議長・総務常任委員長と企画振興課が視察の対応をしました。

一般質問 ここはどうする

９月定例会では６氏が登壇し、村政全般について質問しました。

■安岡　公子・・・・・・・・・・　14p
・教育施設集約化事業今後の取り組みは
・災害時の既存井戸の活用は

■岡村　俊彰・・・・・・・・・・　15p
・災害時に有用なトイレカーの導入は

■白石　修三・・・・・・・・・・　16p
・有害鳥獣に対し住民の安心・安全確保は

■堀川　友久・・・・・・・・・・　17p
・寮生活をする学生の支援は
・農地周辺の水路の整備は

■西笛千代子・・・・・・・・・・　18p
・災害時の備えは
・空き家対策の取り組みは

■岡村　星弥・・・・・・・・・・　19p
・今後の財政運営は
・県外自治体からの支援については

教育施設集約化事業今後の取り組みは

説明会を開催しオール芸西で　教育長



安岡　公子議員

問　安岡議員

教育施設集約化事業は設計段階に進もうとしている。

今後どういう形で各方面の意見を聞き設計に反映させていくのか。

答　佐藤教育次長

７月15日に建築基本設計業者選定のためのプロポーザル審査を実施し委託業者を決定した。

今後教室配置等については、日常的に使用する児童生徒および教職員それぞれを対象にワークショップを行い、昨年末に児童生徒に行ったアンケート結果も参考にしながら決定していきたい。

また、住民の意見をもらうために、パブリックコメントの実施を予定している。

問　安岡議員

認定こども園と小・中学校が集約化された事業は全国的にも少ない。

教室配置や、動線・音の問題などへの配慮が必要と考える。

全ての職種の職員の声を聞き、保護者・村民の声を聞き、オール芸西で作り上げることが大事になってくるのではないか。

答　山内教育長

10月に住民・保護者を対象に説明会を開催する予定。

動線については教職員、防音対策については委託業者からアドバイスをもらい取り組んでいく。

施設が一つになることを目的にするのではなく、「オール芸西で子どもたちを育てる」という理念のもと、家庭、学

校、地域がつながり、世代を超えて学び合える場となるよう教育環境を整備していきたい。



災害時の既存井戸の活用は

防災協力井戸登録制度を作り募集 ｜ 総務課長

問 安岡議員

災害時の生活用水の確保は大変重要だと考える。

村内の既存の井戸を調査して地図に落としてみてはどうか。

その上で、飲料に使えるもの、飲料以外の生活用水に使えるものに分類し、防災協力井戸として登録してもらえるもの、段階によって改修、ポンプ設置、水質検査などの助成を行ってはどうか。

答 長﨑総務課長

災害時の水確保は村民の生命と生活を守る上で重要な課題である。

まず、防災協力井戸登録制度の整備を進め、その登録状況に応じて協力依頼を検討していきたい。

現在ある防災用手動ポンプ設置補助要綱の活用や、見直しなども含めて検討していく。

問 安岡議員

防災協力井戸については早急に要綱を作り、また、ポンプ設置補助要綱の見直しも行い、いつ災害が発生しても安心の体制づくりが重要だと考える。

早急に取り掛かる必要があるのではないか。

答 長﨑総務課長

防災協力井戸制度と、ポンプ設置の補助要綱については、本年度中に県内他市町村の制度を研究し、制度の登録基準や補助要綱の見直しに向けた検討を進めていきたい。

その上で来年度に、広報やホームページ、自主防災組織連絡協議会などを通じて、防災協力井戸の募集を行い、村民に広く協力を呼び掛けていきたい。

災害時に有用なトイレカーの導入は

導入に向けて検討を進める ｜ 村長



岡村　俊彰議員

問 岡村（俊）議員

現在、県内では県・自治体・民間事業者がトイレカーを十数台配備している。

本村もトイレカーを導入し、各種イベントなどでの使用や、見学してもらうことにより、防災意識の向上やＰＲ活動にも効果を発揮するのではないか。

購入費用や維持管理費などの壁はあるが、本村もトイレカーの導入を検討してはどうかを問う。

答 長﨑総務課長

大規模災害時には、トイレが使用不可能となり、避難所の衛生環境悪化が課題となる。

トイレ環境の確保は、避難者の衛生管理・健康維持・心身の安定を図る上で重要な課題の一つだ。



県が配備しているトイレカー

問 岡村（俊）議員

トイレカーの導入については、財政的な課題もあるが緊急防災・減災事業債などの活用や災害時の実効性のある運用体制などの検討課題も多い。

他の自治体の導入状況や運用方法について調査研究を行い、導入の可能性について検討する。

導入については、国・県の財源活用だけではなく、企業版ふるさと納税やクラウドファンディングを活用し、財政難を理由に先送りするのではなく、多様な財源確保を組み合わせ、早期の導入を図るべきではないか。

答 松本村長

本村でも、仮設トイレや簡易トイレの備蓄を進めてきたが、災害時に十分機能するかは疑問が残るところだ。

行政や家庭で事前の準備を進め、災害時のトイレ問題に関する知識や意識づけを深めていくことが重要だ。

財政難を理由に先送りせず、早期の導入に向け検討を進めていきたいと考える。

有害鳥獣に対し住民の安心・安全確保は

関係機関と協力し対応 | 村長


白石　修三議員

問 白石議員

有害鳥獣の被害額及び捕獲状況そして、住民の安心、安全の確保に対し本村としてこれまでどのような対策を取り、今後どのように取り組むかを聞く。

答 吉永産業振興課長

有害鳥獣の被害については、ビニールハウスの損傷や果樹や水稲の食害のほか、農地を荒らされたりなどの被害が報告されている。

昨年度の水稲被害額は約128万円となっている。

捕獲に関して、昨年度はイノシシが55頭、シカ269頭などが報告されている。


村内に設置のイノシシの箱わな

答 松本村長

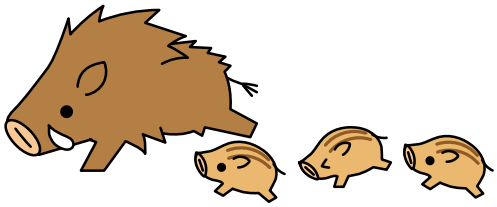
近年は、集落付近の農地などでも見かけることが増えてきた。

特に住宅地では発見しても、わなの設置や、猟銃の使用には制限があるので、対処は困難であり、捕獲には猟友会などに協力を得る他はない。

鳥獣の数も増えて個々で対応することは難しいが、まずは個人や地域内では空き家の管理や、農地や草木の管理、ごみの放置や投棄をしないなど、鳥獣が居づらい環境づくりをすることが大事だと考える。

有害鳥獣の数を増やさないために、村では狩猟者に対し捕獲報奨金を支出し、捕獲を行ってもらっているが、住宅地等では、わなの設置が容易ではなく、地域内への侵入を防ぐことが困難となっている。

現在、有効な方策はないが行政だけで取り組むことはできないので、地域の方や猟友会など関係機関と協力しながら対応を進めていきたいと考える。



寮生活をする学生の支援は

前向きに検討する　教育長



堀川　友久議員

問 堀川議員

現在高校生の通学費用の半額を補助しているが、やむを得ず寮生活をせざるを得ない学校を目指し、個々に特技を伸ばしたいと考える生徒もいるのではないか。

そのような生徒の寮費、下宿費を補助することで、選択肢も増え、家庭の負担も軽減されると思うが、考えを問う。

答 山内教育長

本年度から、上限を撤廃し通学定期購入額の半額を助成している。

寮などで生活する生徒に対して、通学定期代助成の対象になっていない。

県内で助成している自治体があるとのことで、本村でも、子育て世帯への支援の一環として、寮など学校が指定する宿舎に入居する生徒についても支援の対象とすることについて、制度の在り方や財政面も含め、前向きに検討していく。

農地周辺の水路の整備は

必要に応じて検討　村長

問 堀川議員

農地周辺の水路の整備について聞く。

圃場（ほじょう）整備された43年前と比べ農地の状況も大幅に変わってきている。

ビニールハウスが増え、直接水路に排出されていると思うが、水路を拡張など整備してはどうか、村として何か補助事業や対策がないか問う。

答 山本土木環境課長

水田が担っていた雨水を一時的にためる保水機能、遊水機能がハウスの進展に伴い減少した。

浸水対策の抜本的な強化を図るため、関係機関に協力を得て、今年度から内水を強制排除するための排水ポンプの増設に取り組んでいる。

排水路の新設や拡張となると補助事業など財源の確保をしながら事業を行う必要があり、圃場整備地内など用地の課題もある。

排水路を再整備する効果や課題などを整理しながら、関係機関と協議をしていきたいと考えている。

問 堀川議員

西分地区など、よく浸水する場所から徐々に排水機能の向上や掃除のしやすい排水路に整備していくことで、管理しやすくなると考えるが、村としての考えを問う。

答 松本村長

農業が基幹産業の本村にとって重要な課題の一つであると認識している。

低い農地の抜本的な治水対策として、村内全域を対象とした県営事業による排水機場の新設、増強の計画に着手をしている。今年度から西分地区での整備に向けた詳細設計も発注されている。

平野部の農地は勾配が少ないため、水路幅を広げてもたまる水は増えるが農地から和食川への排水能力を高めることにはつながらないと想像される。

現在進めている排水機場の増設計画が完成すると、3か所の排水機場、それぞれの流域において、現在の3倍の排水能力を備える見込みとなっている。

既存の排水路の大規模な改良や整備などの大きな事業を進めることは、財政面では難しい状況だが、部分的な改良などについては、これまで同様検討していきたい。

災害時の備えは

総合的に取り組む 村長



西笛千代子議員

問 西笛議員

災害時の備蓄の冷感資材や経口補水液、血栓症対策に有効であるといわれる段ボールベッドについて問う。

段ボールベッドの劣化を考え、製造会社との防災協定の締結についての考えは。

防災ハンドブックを作り、全戸配布する考えはないか。

答 長﨑総務課長

限られたスペースの中で必要不可欠な物資を優先的に備蓄しており、冷感資材は含まれていないが、経口補水液はパウダー状のものを備蓄している。

県の備蓄方針の動向や他市町村の先進的事例などを参考にしながら検討していきたい。

約660台の段ボールベッドを備蓄しているが、中には既に5年以上経過しているものもあり劣化状況を確認しているが、計画的な更新が必要な状況である。

段ボールベッドの製造会社との協定締結は現在、具体的な検討には至っていないが、既存の協定体制をさらに充実させる観点から今後、協議していきたい。



段ボールベッド

ハンドブック作成は、状況に応じた具体的な行動フローや、必要な備蓄品リストを分かりやすく盛り込むことで、村民の自助の実践を促す上で有効な手段であると認識している。

今年度ハザードマップの改訂を進めていて、全戸配布を予定している。その紙面内に防災

啓発に関する情報、家庭で用意する最低限の備蓄品リストを分かりやすく掲載することを検討している。

答 松本村長

近年の大規模災害の教訓をしっかりと受け止め、避難所の環境改善と村民の防災意識の向上に、より一層力を注ぐ必要がある。

事前復興計画、ハザードマップの作成、避難所運営訓練やマニュアルの見直しなど、ソフト面を中心とした防災基盤の強化を総合的に取り組んでいく。

空き家対策の取り組みは

有効活用の推進に取り組む　村長

問 西笛議員

昨年度の老朽住宅等事業費補助金の利用状況を聞く。

除去後、更地の固定資産税を何年か減免している自治体もあるが、本村の状況は。

リフォーム可能な空き家の荷物整理事業費の上限引き上げについて問う。

答 長崎総務課長

更地にした場合には特例が適用されなくなり、税負担が大きく増加する。このことが空き家解体に踏み切れない要因の一つともいわれている。

一定の期間、固定資産税を減免する制度を導入する自治体が県内にもある。制度新設には検討する課題も多くあり、課題を整理した上で、今後検討していきたい。

答 吉永産業振興課長

昨年度の老朽住宅除却事業の実績は2件で補助金支出は255万5000円だった。

リフォーム可能な空き家の荷物整理の利用状況は1件、片付け費用は29万400円で、補助額は19万3000円だった。

村内の事業者の話では家の大きさや残置物などで変わってくるが、村内の一戸建てであれば、おおむね補助事業の範囲で収まるとの見解だった。

国の制度を利用しているので、補助要件を確認し、補助金の増額や要件の緩和が可能か、補助金の増額が必要かなどを検討していく。

答 松本村長

本村では、管理不全空家等に関する問題を庁内で横断的に協議している。

法律で定められた特定空家等の認定や、処分方針を審議するための「空家等対策委員会」を設置し、もう少し踏み込んで問題解決を図るよう取り組んでいる。

空き家対策は、引き続き地域の生活環境の改善や、有効活用の推進に向けて前向きに取り組んでいく。

今後の財政運営は

今後の見通しを考慮し進める　村長

問 岡村（星）議員

現在の本村の財政状況をどのように評価しているのか。

また、今後の基金残高や村債残高について問う。

将来の公債費償還や施設の維持管理・更新費用を含めた中長期的な総負担、財政シミュレーションについて問う。



岡村　星弥議員

答 長崎総務課長

現段階では、良好な財政状況にあると判断している。

一方で、今後、大型事業が進むこともあり、基金残高は減少する傾

向にあり、村債残高は増加する見込みとなっている。

将来の公債費償還や施設の維持管理・更新費用を含めた中長期的な総負担を把握し、事業判断に生かせるよう努める。

令和11年度までの財政シミュレーションを作成しており、今後、引き続き定期的に更新を実施する。

問 岡村（星）議員

今後、複数の大型事業が進む中で、事業効果と将来負担の両面を踏まえ、必要に応じて事業の規模などを見直していく考えはあるか。

また、中長期的な財政見通しの中で、今後の事業をどのように進めていくのか問う。

答 松本村長

将来にわたって持続可能な投資を行うための適切な財政管理は極めて重要な経営判断であると捉えている。

後世に大きな負担とならないよう、総事業費や事業規模なども十分検討していく必要があると考える。

インフラ施設のメンテ保守や更新、住民生活に直結する福祉施設等を含め、行政としての課題は多くある。

財政面や今後の見通しを考慮し、村政運営を進めていく。

問 岡村（星）議員

情報発信拠点整備事業について、完成後の維持管理など将来の財政負担をどのように見通していくのか。

また、将来必要となる機能や期待される効果を検討し、必要なところにはしっかりと投資していく考えなのかを問う。

答 松本村長

完成後の維持も含めた費用の算定が必要である。

基本的な計画を住民や関係者も交えて、村にとってどういう施設が必要なのかを考えていく必要がある。

計画を練り上げて、村のためになる施設をつくっていきたいと考える。



県外自治体からの支援については

平時からの関係づくりを考えていきたい　村長

問 岡村（星）議員

南海トラフ地震などの広域災害を想定し、県外からの人的支援について、どのような支援制度があるか。

また、外部からの支援を円滑に受け入れるため、どのような受援体制を整えているのか問う。

答 長崎総務課長

市町村からの個別要請を待たず、即時応援県から先遣隊や応援班が派遣される仕組みが整備されている。

災害マネジメント支援や避難所運営などの支援が想定されている。

また、「芸西村受援計画」を基盤として、活動拠点や宿泊拠点のリスト化、進出経路の共有などを図っている。

問 岡村（星）議員

今後、県外自治体との平時からの関係づくりについて、具体的な一歩を進めていく考えはあるか。

また、進めるのであれば、どのようなつながりや視点を大切にしながら関係を築いていくのか考えを問う。

答 松本村長

平時からの関係づくりについては、前向きに考えていきたい。

地理的な条件や産業、文化的な関わり、人口など同じような規模や共通点のある自治体が好ましいと考えている。

今後検討を進めていきたいと考えている。

編集／高知県芸西村議会広報編集委員会
発行／議長　山本　俊二　印刷／㈱高知新聞総合印刷